

だがしや楽校@子育て応援団すこやか2011

日時：2011年6月25日（土）・26日（日）10:00～16:00

会場：山形国際交流プラザ（山形ビッグウイング）

2011年6月25日（土曜日）山形市の天気：曇り一時小雨

2011年6月26日（日曜日）山形市の天気：雨

【だがしや楽校@子育て応援団すこやか2011】

“子育て応援団すこやか2011”（主催：子育て応援団実行委員会〈※注1〉山形新聞・山形放送）が、6月25日と26日の2日間、山形市内（山形国際交流プラザ 山形ビッグウイング）にて開催されました。

※注1：子育て応援団実行委員会構成団体・・・山形県（子育て推進部）・山形市・山形県医師会・山形県歯科医師会・山形県薬剤師会 山形市医師会・山形市歯科医師会・山形市薬剤師会・山形放送

まず、“子育て応援団すこやか2011”の開催趣旨・目的を主催者発表のものでご紹介します。山形県は、人口減少や少子化さらには核家族化が進み、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。また、今回は東日本大震災によってもさまざまな変化がありました。

このような中で、「子どもたちをどのように育て、ともに成長していくか」は、親子だけでなく社会全体にとっても大きなテーマです。

本事業は、地域・団体・企業など社会全体で子育てをサポートする気運を醸成し、次世代を担う子どもたちがのびのびと成長できる社会を目指して、開催するものです。

平成19年（2007年）にスタートした本事業は今年で第5回目です。

今回は、被災地の子どもたちへ募金を募ったり、同じく被災地の子どもたちへメッセージを送るなど、隣県に住む子育て家族を応援する内容で開催します。

山形新聞・山形放送8大事業のひとつである“子育て応援団すこやか2011”。例年5月下旬に開催してきましたが、今年は東日本大震災により1ヶ月遅れの6月下旬の開催となりました。

会場には、子育てを応援する企業の展示、子どもの健康を守るための医師や歯科医師による相談コーナー、子育てに関する情報コーナーなどが設けられています。また、羽陽学園短期大学による遊びのコーナー、さらにステージでは、キャラクターショーやうたのおねえさんのショーなどが繰り広げられました。

それに加えて、各機関や行政関係のブースも設けられました。主催者の一員である山形県は“山形みんな子育て応援団”のブースを設けました。

山形県では、子育て支援に力を入れています。その取り組みのひとつが“山形みんな子育て応援団”です。これは、子どもや子育て家庭に対する応援活動を県民総ぐるみで実践することを目的

に、2009年10月、創設されたものです。

山形県のブースには、子育てに関する山形県の取り組みを紹介するコーナー、“山形みんなで子育て応援団”会員受付コーナー、紙芝居・エプロンシアター・手遊びコーナー、絵本コーナー（移動図書館）などが設けられました。

そして、山形県のブースにはもうひとつのコーナーが設けられました。それは、“山形みんなで子育て応援団”（会員）紹介コーナー（実演コーナー）です。今回は昨年引き続き“だがしや楽校”です。正直、今年は別の団体が紹介されるものと思っていましたので、山形県からお話をいただいた時には、ビックリすると共に、“だがしや楽校”活動が高く評価されたことに、とても嬉しく思った次第です。

さて、山形県のブース内で“だがしや楽校”を開くにあたり、私としては、大規模イベントの中でも、“だがしや楽校”の本当の意味を来場者にできるだけ伝えたいというこだわりがありました。そこで、「“だがしや楽校”とは、イベントとして開かれるものもあるが、日常風景の中で開かれる“だがしや楽校”もある」ことを意識しながら、紹介することにしました。山形県内では、特に“だがしや楽校”が「単なるイベント・集いの場」とか「昔遊びの場」と誤解されがちであることも、私がこだわった背景です。

昨年も申し上げましたが、子どもは地域の宝です。だから、子育てとは地域のみんなで取り組むべきものです。“だがしや楽校”も、みんなで開き、みんなが集い、みんなで創意工夫しながら、みんなが楽しむところです。そこに「遊ばせる」「遊んでもらう」という一方通行的感覚はありません。このような趣旨により、山形県のブース内で“だがしや楽校”を開きました。

とは言え、あまり深くは考えずに、とにかくみんなで楽しむことを大切に、2日間対応しました。

それでは、“子育て応援団すこやか2011”の模様を“だがしや楽校”を中心にお伝えします。



初日の6月25日、午前9時35分より入口ゲート前で開会式が行われ（写真左）、主催者・関係者によるテープカットが行われました。（写真中）



2日目の6月26日は、初日以上にオープン前からお客さんが集まり、列は広いホールを埋め尽くし、外にまで伸びるほどでしたので、予定より早め、午前9時55分オープンしました。（写真右）



会場内の様子も写真でご紹介しましょう。初日の25日も大にぎわいでしたが、2日目の26日はあいにくの雨模様の天気にもかかわらず、さらに大勢の人が訪れました。特に午前中は大混雑となりました。(写真右)



“だがしや楽校”は、山形県の“山形みんなで子育て応援団”のブース内で開きました。今年は昨年より広くスペースを確保していただきましたので、常時3つのおみせを出すことができました。それでは、おみせ毎にご紹介します。

▼ブーメラン



お馴染み、大江町のOkiiさんによる紙で作るブーメランのおみせです。



今回も大人気で、次々に子どもたちが遊んでいきました。おとうさん・おかあさんと一緒に作る風景もたくさん見られ、親子の絆を深めているようでした。

出来上がったブーメランは、Okいさんの飛ばし方を教えてもらいながら、試し飛ばしです。見事に手元に戻ってくるから不思議です。

▼プラバン・アクセサリー



今回は鶴岡からも“だがしや楽校”仲間に来ていただき、おみせを出しました。おみせはお馴染み“プラバン・アクセサリー”です。楽しく絵描きした後、オーブンに入れて暖めると、歪曲しながら縮んでいき、小さなアクセサリーになります。その様子を子どもたちは目を輝かせてみています。



2日目の26日は、子ども体験広場普及員のDoiさんが大活躍。試しに凹凸のあるままオーブンに入れてみたら、平に縮まり、アクセサリーになりました。

▼楽描き（らくがき）



子どもたちはお絵描きが大好きです。“楽描きだがしや楽校”のリクリンさんとカツコお姉さんがはじめに出されたおみせです。

▼スライム



“楽描きだがしや楽校”のリクリンさんとカツコお姉さんが次に出されたおみせはスライム。フィルムケースを懸命に振ると、プヨプヨのスライムができます。

スライムで顔を描いたのはリクリンさん。鶴岡のTogaさんもおみせに加わりました。山形県のKobaさんも体験です。



▼スタンプで生き物を作ろう



東北芸術工科大学大学院のIshiさんのおみせです。プラスチックケースからダンボールの切れ端まで何でもスタンプにして遊びます。



子どもたちはスタンプ遊びも大好きです。子どもたちの自由な発想力は、いつの間にか顔を描いていました。

▼紙芝居



鶴岡市の紙芝居おじさん・中村さんによる紙芝居です。自転車の荷台での昔ながらの紙芝居です。なぞなぞあり、方言クイズありの楽しい紙芝居です。



創作紙芝居ということで、いろんなパターンの桃太郎を口演されました。川で洗濯していたら、桃がウジャウジャと流れてきて・・・

紙芝居が終わった後は、買い物体験もできます。



その中村さん、“だがしや楽校”のおみせでも大活躍。子どもたちとブーメランをいっしょに作ったり、楽描きでは、子どもたちが描いた絵で、即席の紙芝居を口演されました。

ここまで“だがしや楽校”をご紹介しました。

“だがしや楽校”の隣りは、山形県の“山形みんなで子育て応援団”の取り組みを紹介するコーナーです。パネルやパンフレットによる広報、チラシ・ティッシュ・風船を配りながらのPRを行いました。その中で子どもたちに人気だったのが風船です。前日からたくさんの風船を膨らませて準備していたのですが、アツという間に無くなってしまい、“だがしや楽校”メンバーも風船作りをお手伝いすることになりました。



それが実を結んだのでしょうか、“山形みんな子育て応援団”に入会を申し込む風景が見られました。

山形県ブースの向かい側ではステージイベントが繰り広げられていました。



歌や踊りなど多彩なプログラムでしたが、最も人気があったのは、お馴染みアンパンマンショー。主催者・YBC山形放送のテレビ中継もありました。



テレビで紹介されたがしや楽校
(YBCのテレビ画面より)



山形県ブース前のテレビ撮影風景



YBCラジオ中継番組の中で
山形県ブース前にてレポート
するYBCのレポーター



天童市の羽陽学園短期大学は、ステージにて“UY0 たま3分間劇場”を披露したほか、今年も大人気“キッズわくわくワールド”を開きました。



キッズトランポリンコーナー
上山市トランポリン協会



牛乳パックのビー玉コースター
山形県環境科学研究センター



赤ちゃんはいはいレース



山形県立図書館コーナー



屋台コーナー



メッセージコーナー



メッセージボードはこんな感じになりました。「はやくいっしょにあそびましょう」と書いた私のメッセージもどこかに貼られています。

今年も2日間でたくさんの来場者がありました。2万人はあったと思います。特に2日目の6月26日は、雨模様の天気にもかかわらず、物凄い人出となりました。

そんな中、山形県のブースにもたくさんの子どもたちや親子連れが立ち寄り、“だがしや楽校”を体験されました。“だがしや楽校”を広く知っていただくという点で、効果はあったものと思われま

す。
ただ、少々考えさせられる場面もありました。例えば・・・

○親のペースで遊ばされる子どもたち

子どもたちがまだ遊んでいるにもかかわらず、「次のブースに行こう」とか「もう帰ろう」という親が見られました。途中でやめて帰らざるを得ない子どもたちもいました。子どもが主役のイベントですので、残念な光景でした。

○道具を丁寧に扱わない親たち

ペンやハサミなどの道具を雑に扱ったり、使い終わるとそのまま置きっぱなしにする親たちが見られました。一部の親ですが、それに影響されてでしょうか、子どもたちの中にも道具を雑に扱う光景が見られました。

○マナーを知らない親たち

子どもたちが遊んでいる脇で、1人分の場所を陣取り、長々と、しかも大きな声で携帯電話にて話し続ける親の姿もありました。

私がいつも思うのは、子育て支援とは「まずは親への支援が第一であること」です。本当の意味で「子育てが出来る親」を育てることが先決なのです。

今の世の中、そういう意味での成長がないまま、親になってしまうケースが多いのではないかと危惧しております。

それでは、どうして、そんな親が増えたのでしょうか。それを考えると、今の社会が抱える様々な問題にぶち当たります。便利さを求め、すべて合理的に考える時代。人とのつながりがなくても、コンビニに行けば何でも買える時代。だから「自分が良ければ良い」という考えが蔓延る時代なのです。

楽しかった2日間でしたが、“だがしや楽校”としても様々な課題を感じた2日間でもありました。“だがしや楽校”は、便利さだけではない、お金だけが豊かさではない、人間としての本当の豊かさを知ってもらう場でもあるからです。

それでも、子どもとジックリ遊ぶおかあさん、子どもといっしょに作るおとうさんの姿もあり、とても良い感じの“だがしや楽校”でもありました。

これからの“だがしや楽校”普及活動の大きな糧になった2日間でした。貴重な2日間でした。

この2日間、子育て推進部の方々をはじめ、山形県の皆さんには大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター